

新競技体系と部門の改訂等について

2013年(平成25年度)は、4年毎に行われる競技採点規則の改訂年に当たります。本連盟では、このルール改訂期にあわせて国内の競技エアロビックの現状問題を整理して、今後の普及拡大を目的に、以下の競技体系、競技部門、年齢区分などの見直しを図ることとしました。

(改訂の趣旨) 現状問題

- 少子化等に伴って県大会参加者が年々減少の傾向にある。
- 競技者層が若年化して、発育発達の面から、より安全な指導や大会運営システムが望まれている。
- 健康、地域スポーツ振興の観点から、シニア世代でも競技エアロビックを長く続けて参加できる大会運営システムが望まれている。
- 国民体育大会の参加を目指して、審判員の増員が急務となっている。
また、地域スポーツ振興に必要な審判員の養成と、審判が実践可能な身近な大会の開催が望まれている。

1. 新競技体系について

これまで国内大会は、「ルーティン(競技)」「フライト」「チーム」の3区分で競技を実施してきましたが、国のスポーツ基本計画の「トップスポーツと地域スポーツの振興」の観点から、今後は、以下の「公式競技」「チャレンジ競技」「エンジョイ競技」の3区分と、それぞれの名称を使用していきます。

◆公式競技

- ・国際ルール(FIG.COP)を基に国内用として「JAF エアロビック公式競技・採点規則」に則って行われる競技。国内トップを目指す競技大会や国際大会に繋がる競技内容を指す。

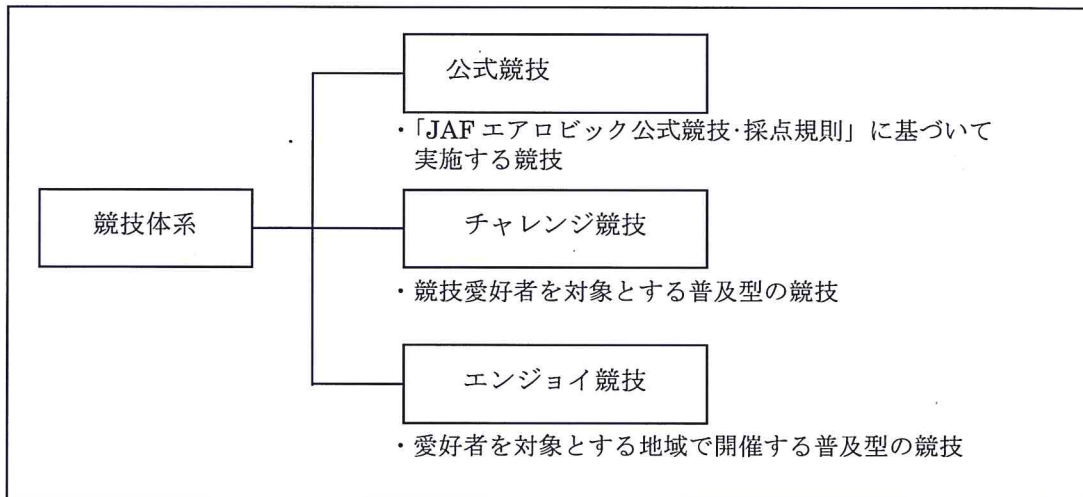
◆チャレンジ競技

- ・一般愛好者が競技エアロビックを楽しむため、または競技エアロビックの普及型として行う競技内容を「チャレンジ競技」と位置づける。

◆エンジョイ競技

- ・初心者レベルでも参加できる、エンジョイ型の競技や発表会を「エンジョイ競技」として位置づける。

図 1：新競技体系



2. 部門の名称改訂について

3つの区分における各部門名と年齢区分を次のように改訂します。

◆ Div (ディビジョン) の呼称について

- ・公式競技のルールをゆるやかにしたチャレンジ競技における「一般シングル部門」の名称として使用していく。
- ・この部門は、シングル種目で男女混合とし、17歳から3段階に年齢区分して、選手たちに競技を継続して楽しんでもらうことをねらいとする。

◆ シニア、ユース、ジュニア及びAGの呼称について

- ・これまで「一般」と称してきた17歳以上の大人の部では「シニア」の呼称を使用する。
- ・これまで使用してきた「AG」(Age Groupの略)は、国際大会のみに使用するものとし、今後国内では「ユース」の呼称を使用していく。
- ・これまでU-10と称してきた10歳以下は「ジュニア」の呼称を使用していく。
- ・ついでには、国内と国際の呼称と年齢区分は次の通りとなる。

【国内】ユース1 (11～13歳)、ユース2 (14～16歳)、ジュニア (10歳以下)

【国際】AG 1 (12～14歳)、AG 2 (15～17歳)

◆ U-10 シングル部門の廃止と対応について

- ・今後のジュニア (U-10) の育成方針から、この時期はエアロビックの基礎を築く世代として位置づけ、競技性の強いシングル部門はJOCジュニアオリンピックカップから廃止する。但し、地域の大会では、チャレンジ競技として実施が可能とする。
- ・競技の楽しさやチームワークの醸成から、JOCジュニアオリンピックカップのトリオ部門は継続するものとし、スポーツエアロビックではジュニア・チーム部門を新設する。
- ・シングル部門の廃止に伴い、安全で健全な競技エアロビックの指導育成の指針として、初級、中級、上級の3段階に分けたジュニアの課題練習をとりまとめ、指導者向けにガイドライン(動画)を提供していく。

◆フライト競技の年齢区分の変更について

- ・選手層の厚さやそれぞれの年齢に見合った体力や技能を考慮して、新たに年齢区分の見直しを行った。小学生はわかりやすく学年で区分していく。

3. 県連盟の主催大会、ブロック大会等について

- ・エンジョイ競技は、主に地域スポーツの活性化を目的に各県連盟単位に開催する競技とし、本部は普及促進として、エンジョイ競技の全国交流大会(仮称)の開催を進めていきます。

以上